

## 還元型太陽熱土壤消毒と台木品種「FR-2」の併用によるメロンつる割病レース1の防除法

みんなで進めよう  
茨城農業改革

農業総合センター園芸研究所

メロンつる割病レース1に対し、還元型太陽熱土壤消毒と台木品種「FR-2」利用による接ぎ木栽培を併用すると、高い防除効果が得られます。

### 還元型太陽熱土壤消毒の実施方法

圃場 10a 当たりフスマ 1t を施用し、土壌を耕耘後、灌水チューブで土壌全面にむらなく散水します。表面に水が浮き上がる程度まで湛水状態になったことを確認した上で、土壌全面を古ビニルなどで覆い、約 1 ヶ月間ハウスを密閉します。

本法を実施するに当たり、以下の点に注意してください。

- 1 密閉処理は梅雨明け後の 7 ～ 8 月に実施してください。
- 2 フスマは 1t/10a 投入します。
- 3 土壌に十分な灌水を行います。
- 4 消毒後は、深耕やハウス内周縁部の耕耘は避けます。
- 5 消毒後に土壌診断を実施し、過剰施肥とならないよう注意します。



フスマ 1t/10a を散布



ロータリーで耕耘



灌水チューブの設置  
3間ハウスで4本程度



ビニル被覆し、ムラなく灌水  
約1ヶ月間密閉する

### 台木品種「FR-2」の特性と主な接ぎ木方法

「FR-2」を台木として接ぎ木栽培を行うと、自根栽培に比べて草勢が旺盛になり、果重が大きくなる傾向が見られます。草勢が旺盛となりすぎる場合は、施肥量を控えるなどして生育を調節します。

接ぎ木をする場合には、台木の胚軸が細いために、カボチャ等に接ぐ場合より作業が煩雑になります。主な接ぎ木方法としては、「挿し接ぎ」と「片葉切断斜め合せ接ぎ」があり、下図の手順で作業を進めます。

<挿し接ぎ：作業効率は高いが、技術には熟練を要し、養生管理には注意が必要です>

台木は穂木より 7 ～ 10 日早く播きます。接ぎ木時期は、穂木の本葉が見え始めた頃です。



台木の本葉をとり除く



台木から突きでない位  
竹串等で穴をあける



穂木を斜めに切り  
下げる



切断面が下になる様  
台木にさし込む



接ぎ木後3日程度は  
遮光し、トンネル密閉

<片葉切断斜め合せ接ぎ：技術は簡単ですが、資材(チューブ)を必要とし、養生管理には注意が必要です>

台木は穂木より 2 ～ 3 日早く播きます。接ぎ木時期は、穂木の本葉が見え始めた頃です。



台木の子葉片側を残し  
切り下げる



台木にチューブを  
装着する



穂木の子葉下 1cm  
を切り下げる



切断面を合わせて  
穂木をさし込む



接ぎ木後3日程度は  
遮光し、トンネル密閉

<問い合わせ先：園芸研究所プロジェクト研究チームメロングループ 電話0299(45)8340>